

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
 秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
 佐々木真美 中村佳代 松谷剛

1. 公・民・私それぞれの役割と課題（文化の視点から）

私たちは栃木県宇都宮市が妖精のまちであるということを文化の視点から広めるための方法を分科会で報告する。「妖精のまち宇都宮」の拠点は妖精ミュージアムにある。そこで妖精ミュージアムを事例に、公・民・私それぞれの役割と課題を探る。

	役割	課題
公 (市)	<ul style="list-style-type: none"> ・妖精ミュージアムの予算管理 ・イベントの企画・主催 ・HP またはポスター、看板、うつのみや 広報などによる市民への宣伝 ・資料の管理 <p>●<u>環境作り</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妖精ミュージアムの新設以降目立った進展は見られない。それではミュージアム自体作って終わりまで寄贈された資料の活用が成されない。そこで来館者数の増加及び資料の活用方法を考えることが課題である。
民 (文化ボランティア：妖精の会)	<ul style="list-style-type: none"> ・妖精ミュージアムの運営 ・妖精グッズの販売 ・イベントの運営 ・スタッフブログによる宣伝 <p>●<u>環境内での活動</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はイベントの主な宣伝は市の広報誌によるが、「民」はインターネット上での宣伝に重きを置くべきである。なぜならインターネット上の宣伝の利点としては資金がかからないことや、広報誌を読まない層の人達にも情報を提供できる可能性があることが挙げられるからだ。
私 (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・客としてイベントに参加 ・ボランティアとしてイベントに参加 ・市民から市民への情報伝達 <p>●<u>その環境の積極的利用</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を根付かせるためには「私」の協力が不可欠である。そのために「私」が積極的にイベントに参加したり「公」や「民」が行う事業に興味を持つことが課題である。

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
佐々木真美 中村佳代 松谷剛

2. イベントからの考察

下は「公民私の協働の形を表す」、「お金を最低限で抑える」、「子どもを対象とする」イベントの例である。

①公民私の協働の形

この写真は10月31日のハロウィンイベントの様子である。ここから見える公民私の協働の形とは、「公」と「民」が協力して作った環境の中で「民」が運営を行い、「私」がそのイベントに積極的に参加するというものである。



(引用：うつのみや妖精ミュージアムスタッフブログ¹)

②お金を最低限で抑える

予算が限られているのでその予算内で事業を行う必要がある。そのためワークショップのような材料費がかかるイベントでは参加者から参加費を回収することがある。(約 300 円程度) このようなイベントは幅広い年齢層の人々が楽しめる内容である。



ワークショップの例

(引用：うつのみや妖精ミュージアム HP²)

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
佐々木真美 中村佳代 松谷剛

ちなみに①のイベントも②同様、限られた予算の中でイベントを行うための「公」と「民」の知恵と工夫が表れている。

③子供を対象とする

これは毎月第4日曜日に開催されている「妖精とあそぼう！」の様子である。



(引用：宇都宮妖精ミュージアムスタッフブログ³⁾)

Q. なぜ子供を対象とするイベントが多いのか？

A. 大人を対象とするイベントには子供は参加しづらいため。また、子供を対象とすることで大人（親など）も子供と一緒に参加することができるため。

特に、子供のころから妖精に触れることで自分のまちである宇都宮が妖精のまちであるというイメージが浸透すると考えられるため。

イベントは子供を対象としているものが多い。

例：絵本の読み聞かせ、季節のイベント、ワークショップなど

3. 考察の結果

妖精の文化を根付かせるためには拠点となる妖精ミュージアムの存続が必要不可欠である。また妖精ミュージアムの存在を「民」や「私」に広めるという意味でもイベントの成功が重要である。イベントを成功させるためには「公」「民」「私」の協働が必要である。

ゆえにテーマである「公」「民」「私」の協働は必要であり可能である。

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
 秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
 佐々木真美 中村佳代 松谷剛

4. まちづくりにおける公・民・私それぞれの役割と課題（スポーツの視点から）

私たちは、栃木県のプロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」（以下「ブレックス」）について、いかにプロスポーツと市民が融合し、まちを盛り上げる可能性を秘めているのかを分科会で報告する。バスケットボールに限らず、様々なプロスポーツが日本中のあらゆる地域で地域密着活動やスポーツの普及活動をしているが、私たちは宇都宮市を事例に、まちづくりにおける公・民・私それぞれの役割と課題を探る。

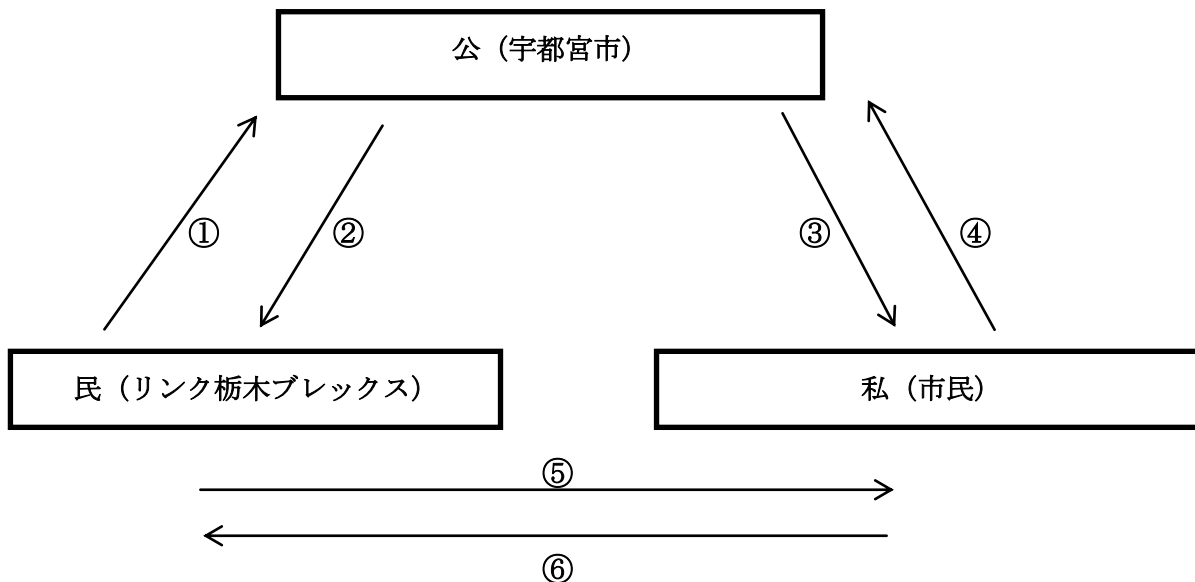
	役割	課題
公 (宇都宮市)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館、公園の整備 ・ ハード面（体育館、ストリートボールコート）の提供 ・ 緑化活動の推進 <p>●<u>環境作り</u></p>	<p>プロスポーツチームはバスケットボールだけではないので、県内の他のプロスポーツ（サッカーや自転車競技）とそれぞれどのように偏りなく支援するか。</p>
民 (ブレックス)	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスケットボールの普及に貢献する ・ 地域密着活動を行う ・ 子供に夢とモチベーションを与える ・ 周辺店舗との共同キャンペーン <p>●<u>地域に根ざした活動</u></p>	<p>チームのある地域に、同業の他社が存在する場合、企業名が前面に出たチーム名だと、他社にかかわる市民は応援しづらい。</p> <p>ゆえに、企業は地域名を前面に押し出して地域密着とし、企業色を薄めなければいけない場合がある。</p>
私 (市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な緑化活動への参加 ・ メディアを利用して情報を発信・受信していく ・ 市民が一体となって、チームを応援する ・ スポーツに触れる機会を積極的につくる <p>●<u>まちをつくる一員であることを自覚</u></p>	<p>まちの発展を受身になって傍観するのではなく、自分たちの手で積極的に作り上げていくという高い意識を持つ必要がある。</p> <p>ボランティア活動ももちろん大切だが、寄付という文化を根付かせることも重要な課題のひとつである。</p>

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
佐々木真美 中村佳代 松谷剛

5.スポーツによるまちづくりにおける公・民・私のあり方（宇都宮市の場合）

ここでは宇都宮市のスポーツによるまちづくりにおいて、公・民・私の三者が互いにどのような働きかけを行っているかを以下の図で示した。



[内容]

- ①：行政活動の PR に参加・協力、収益の一部を寄付
- ②：ハード面（体育館施設）の提供、試合の際に周辺に臨時駐車場を設置、宣伝活動の際の支援
- ③：市民が利用しやすい体育館・公園の整備、緑化活動への参加を促進、ブレックスの情報を発信
- ④：緑化活動など地域・市民活動への参加、行政への施策提案
- ⑤：地域密着活動によるブレックスの関心・認知度の向上・信頼の獲得、市内店舗との共同キャンペーン活動、子どもに夢を与える、子どものモチベーションを高める、バスケットボールの普及
- ⑥：チームの応援、グッズの購入、市民ボランティアとしてのサポート活動、ブレックスの地域密着活動への参加

この三者間の関係で私たちが重要視したのは、地域活動や市民活動に市民が積極的に参加すること、そして、まちづくりには子どもの参加が不可欠である、ということである。

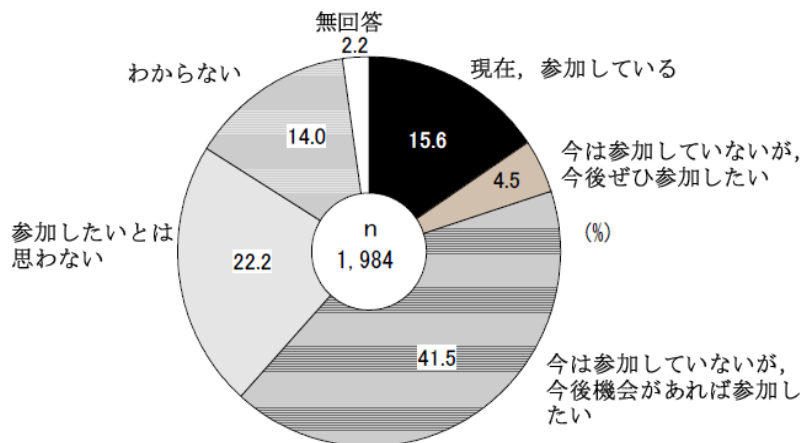
市民の積極的な地域・市民活動への参加について、宇都宮市がまとめた『市政に関する世論調査の結果－第 39 回 平成 18 年度－』の地域活動や市民活動についてのアンケート（図 3 を参照）によると、地域活動や市民活動について「現在、参加している」（15.6%）、「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」（4.5%）、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」（41.5%）となっている。この結果から、市民は地域活動や市民活動に対す

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
 秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
 佐々木真美 中村佳代 松谷剛

る関心が比較的高いように思われる。したがって、市やブレックスは、市民が自発的に参加できる地域・市民活動の環境づくりを行う必要がある。

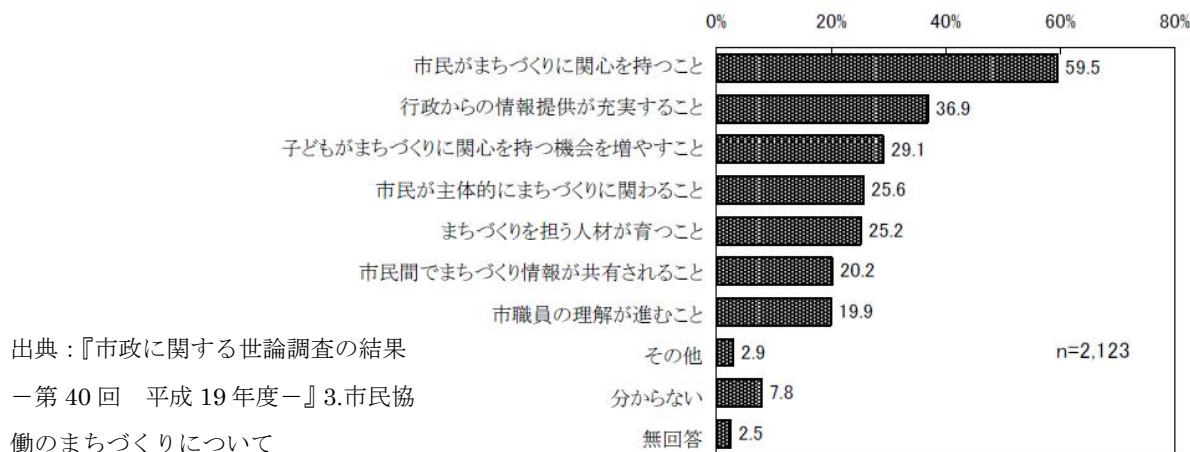
図 3. 「地域活動や市民活動への参加状況」



出典：『市政に関する世論調査の結果 ー第 39 回 平成 18 年度ー』6.市民活動や地域活動について

また、『市政に関する世論調査の結果 ー第 40 回 平成 19 年度ー』によれば（図 4 を参照）、市民協働のまちづくりにおいて「子どもがまちづくりに関心を持つ機会を増やすこと」（29.1%）が上位に位置している。これは、市民がまちづくりの担い手として子どもの重要性を認識していると考えられる。

図 4. 「市民協働のまちづくりに向けて重要であること」



出典：『市政に関する世論調査の結果 ー第 40 回 平成 19 年度ー』3.市民協働のまちづくりについて

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
佐々木真美 中村佳代 松谷剛

6. 公民私の協働は可能か？に対する結論

【資金】

- ・ 多額のお金をかけて大きな事業を行うより、低コストでのまちづくりが、公・民・私を推進させる原動力となりやすい。

【市民の積極性】

- ・ 市民はどうしても、行政や企業が提供してくれるものを享受する、という立場をとってしまいがちだが、そうではなく自らが担い手となることが重要。
- ・ イベントの主催は「公」であるが運営と空間作りは「公」と「民」の協働によってなされ、その環境に「私」が興味関心を持ちイベントに参加することによって真の協働がなされるのである。
- ・ ボランティア活動は、今日の市民の生活にある程度浸透してきているが、寄付の文化はあまりなじみがないよう。現実問題として、資金を作りそれをまわしていくということは、まちづくりに欠かせないものであるので、そこまで市民が深く関わるようになることもこの先求められる。

【子ども】

- ・ こどもとは、地域を支える大事な存在であり、そのこどもの感性を磨くことは地域の将来にとって大変重要なことである。
- ・ 多くのプロスポーツは地域密着活動を積極的に行っており、よく小中学校へスポーツ教室として出向くことを行っている。そのように子供がスポーツに触れる機会を作っていくことで、こどもの感性を磨いていける。

【世界】

- ・ スポーツは世界共通である。それゆえに、宇都宮市の事例は県や国を越えて、世界においてもそのモデルとなりえる可能性を秘めている。
- ・ 妖精は思想や観念、精神の面から共通分母になりうると考えられる。例えば、妖精のジャズなどが挙げられる。それゆえに、幅広い年齢の方々に参加してもらえると考える。

資金面や、市民の積極性や次世代の伝承面から考えると、公・民・市の協働は可能である。その結果、文化とスポーツは、世界共通モデルや、世界共通分母になるかもしれない。

テーマ：公・民・私の協働は可能か？～文化とスポーツの視点から～

宇都宮大学 中村祐司ゼミ
秋山果歩 黒川佳美 酒井理恵
佐々木真美 中村佳代 松谷剛

参考資料

宇都宮市

「市政に関する世論調査の結果 ー第 39 回 平成 18 年度ー」

「市政に関する世論調査の結果 ー第 40 回 平成 19 年度ー」

リンク栃木ブレックス

「JBL 所属プロバスケットボールチーム リンク栃木ブレックス (Link Tochigi BREX)
チーム紹介及び活動 実績説明資料」

リンク栃木ブレックス オフィシャルウェブサイト

「地域密着活動について」

<http://www.linktochigibrex.com/community/index.html>

(閲覧日 2010 年 11 月 1 日)

1 うつのみや妖精ミュージアムスタッフブログ <http://ufairy.seesaa.net/index-2.html>

2 うつのみや妖精ミュージアム <http://www2.ucatv.ne.jp/~ufairy-m/event.html>

3 1 同様